

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3 年	2	選択
担当教員			
小板橋 信二			
A (会計学科)	S (専門科目)	BA (経営)	301 (上級科目)

授業のねらい（概要）	企業審査は経済活動のなかで「与信」を行うときに何らかの形でなされるのが普通である。そのための企業の業績評価は銀行・大企業・中小企業を問わず、すべての企業経営に必須の基礎知識である。企業を分析・評価するための手法及び分析視点を身に付けることを目的とする。 企業の業績評価は、財務データをシステム化し定量的に企業を評価する手法である。企業評価の目的に応じた代表的な業績評価システムを紹介し、金融機関で定着している「格付・自己査定」による融資審査や信用リスク管理の概要及び課題について解説する。さらに、近年注目されている“財務＝事業”を一体的な視点で評価する「事業性評価」の意義・方法論を解説し、企業の経営改善や事業計画策定に如何に活用すべきかを考察する。M&Aや事業承継にも企業評価は重要な手段であることにも触れる。		
授業計画	第1回	前期【遠隔】 ガイダンス 授業内容及び進め方の確認 企業の業績評価の意義、概要 予習（時間）：シラバスを読み講義概要を理解（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第2回	前期【遠隔】 代表的な業績評価モデル① 企業評価の目的 将来の収益性からのアプローチ 過去の財務指標からのアプローチ 予習（時間）：教科書 p2～7を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第3回	前期【遠隔】 代表的な業績評価モデル② 資金繰りからのアプローチ 市場の同業他社比較からのアプローチ 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第4回	前期【遠隔】 金融機関の格付・自己査定① 意義及び目的、活用（与信管理と信用リスク管理） 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第5回	金融機関の格付・自己査定② 決定プロセス（形式格付と債務者格付） 債務者格付と債務者区分 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第6回	前期【課題】 金融機関の格付・自己査定③ 取引方針の決定 検討ポイント（事例に学ぶ） 制度の限界、課題 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第7回	事業性評価① 事業性評価に取組む意義 事業性評価に着目した実態把握の手順 予習（時間）：教科書 p10～24を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第8回	事業性評価② ローカルベンチマーク （i 財務情報 ii 非財務情報） 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第9回	事業性評価③ ライフステージからの把握 業種別の事業環境の特徴とトレンド 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）	
	第10回	事業性評価④ 「カネ」への目利き i 財務面からの強みと課題	

	ii 資金繰り面からの強みと課題 第11回 予習（時間）：教科書 p 26～37を熟読 事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120） 事業性評価⑤ 「モノ・コト」への目利き 製造・販売面からの強みと課題 第12回 予習（時間）：教科書 p 40～56を熟読 事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120） 事業性評価⑥ 「ヒト」への目利き 人材・マネジメント面からの強みと課題 企業の将来性、技術力、ビジネスモデルの評価（事例に学ぶ） 第13回 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120） 前期【課題】 企業評価の活用① 企業の経営改善支援への活用（事例に学ぶ） 第14回 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120） 前期【課題】 企業評価の活用② 企業の事業計画策定への活用（事例に学ぶ） M&A、事業承継への活用 第15回 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120） 企業評価の活用③ モニタリングの重要性 K G I （重要目標達成指標と K P I （重要業績評価指標） 予習（時間）：事前配布したレジュメの該当箇所を熟読（120） 復習（時間）：配布資料及び講義ノートを見直し、授業のポイントを整理（120）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力 【身に付くスキル】 職業倫理感・論理的思考力
到達目標	①企業を分析するために必要な知識とスキルを身に付ける。 ②業績評価モデルを理解し、その意義・活用方法を説明できる。 ③自らが予想した将来シナリオに基づき、経営改善や経営戦略を助言できる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	小テストの注意点やポイントは授業内で解説する。
履修上の注意	①授業に必要な資料は都度配布する。 ②企業を評価するという意識に引きずられると本質を見失う、財務数値のみに捉われるのではなく事業の本質（ヒト、モノ、カネの観点からの良否）を理解することが重要である。
成績評価の方法・基準	定期試験60%、授業内で行う小テスト20%、学修意欲：20%
教科書	書名：本業支援と企業評価向上のための事業性評価入門 編者：フロンティア・マネジメント 出版社：きんざい 価格：1000円（税別）
参考書・教材	書名：事業性評価に基づく 取引先の見方・支援の進め方 著者名：リッキービジネスソリューション 出版社：近代セールス社 価格：1800円（税別）
備考	講義科目／実務家教員による授業 前期では第6回、第13回、第14回を課題研究として学修する。 第6回 事例研究として企業を評価する。資料の配信・指示及び解答用紙の提出はmellyなどで行う。課題研究の詳細な指示は第5回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。解答例・解説・注意事項等は書面又は第7回の対面授業でフィードバックを行う。 第13回 事例研究としてA社（仮想企業）の企業実態を分析する。 第14回 事例研究としてA社（仮想企業）の事業性評価を実施し改善案を提示する。 第13回、第14回共に、資料や情報の配信・指示及びレポートの提出はmellyなどで行う。 また、課題研究の詳細な指示は第12回の対面授業で行う。共に全体で330分の学修を想定している。 解説及びポイントは書面又は第15回の対面授業でフィードバックを行う。 前期においては、新型コロナウイルス感染が長期化する場合には「成績評価の方法・基準」欄の「定期試験」を「最終レポート」に代替する。第1回の授業内で概要を説明し、mellyなどで詳細を告知することとする。
教員との連絡方法	メール